

河道管理の実践を通じた 河川技術の向上

(研究期間：平成18年度～)

河川研究部 部長
(博士(工学)) 天野 邦彦
河川研究室 室長 諏訪 義雄 主任研究官
(博士(工学)) 福島 雅紀
主任研究官 山本 陽子 研究官 中村 良二 研究官 鈴木 淳史



(キーワード) 河川管理、維持管理、人材育成

1. 河道管理研究会について

河道管理にあたっては、河川工学の知見だけでなく、生物、景観、維持管理コストなど、総合的な河川技術が要求される。また、適切な河道管理を行うためには、整備後の変化を考慮した河道設計が必要である。

こうした河道管理に必要な河川技術を磨くため、九州地方整備局及び東北地方整備局と共同で年3回程度河道管理研究会を実施している。この取り組みを継続的に実施することにより、河道管理に係わる職員の知識の修得や知見の共有を図り、若手技術者の技術も磨かれることで、人材育成や技術の伝承に役立つと期待している。

2. 各河道管理研究会の取り組みについて

九州河道管理研究会は、河床洗掘や土砂堆積、樹木繁茂等の河道変化の予兆を捉えて的確な時期に対策を行う、いわゆる予防保全型の維持管理技術や、再堆積や再繁茂を抑制する河道掘削技術を研究・開発することを目的とした研究会である。メンバーは学識経験者、九州地方整備局、国総研及び九州7県で構成され、平成18年3月から平成28年度までの約10年間で合計26回の研究会や現地視察を実施してきた。

これまでに、九州河道管理研究会とともに河道の流下能力、土砂堆積、樹木繁茂及び河床洗掘の状態を把握し、点検・対策につなげていくための管理ツールとして「河道管理基本シート」を考案・試行しており、各河川で活用されている。また、データ収集・情報化・判断に着目して、河道管理の類型・分類を行い、九州における河道管理の実践による気づきを類型別に整理した事例集及び河道特性分析のための基本情報から構成される「河道管理の実践のための読本」を作成し、現場で活用されている。



写真 川内川支川羽月川合流点の現地視察

今後、このような取り組みを通じて河道管理に関する知識を集積・共有化することで、全国ベースで河道管理技術が向上することを期待している。

東北地方整備局では、東北地方整備局、リバーカウンセラー、(一社)東北河川管理技術研究会と国総研河川研究室の連携を強化するため、平成28年度より東北地方整備局における河道管理・調査ワーキングを開催している。

今後、東北地方整備局管内の河川でも河道掘削が進められることから、本ワーキングにおいては、主に河道掘削後の再堆積、樹木繁茂等を抑制するため、河道掘削方法や掘削後のモニタリング方法について、現場で生じた変化等を確認しながら意見交換や議論を行っている。

3. 今後について

若手職員から幹部職員まで幅広い役職の職員が一堂に介して意見交換を行う場合は、問題意識を共有しその対策方法等を知ること、若手職員のみならず幹部職員や研究会に参加している国総研職員の技術研鑽、人材育成にも役立っている。

現在、河道管理研究会は東北と九州で実施されており、引き続き河道管理研究会の取り組みを進めるとともに、各河道管理研究会で得られた知見を情報共有しつつ、他地域への適用の可能性も考慮しながら実施していきたい。